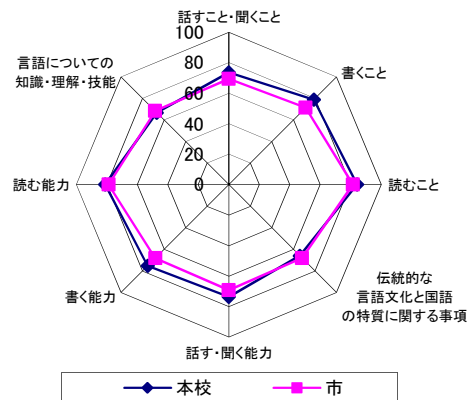


宇都宮市立東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	73.6	69.3	73.4
	書くこと	78.9	71.3	74.6
	読むこと	84.1	81.5	81.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	66.0	68.1	71.6
観点別	話す・聞く能力	73.6	69.3	73.4
	書く能力	75.3	68.1	71.7
	読む能力	81.1	78.8	79.0
	言語についての知識・理解・技能	66.8	68.4	72.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

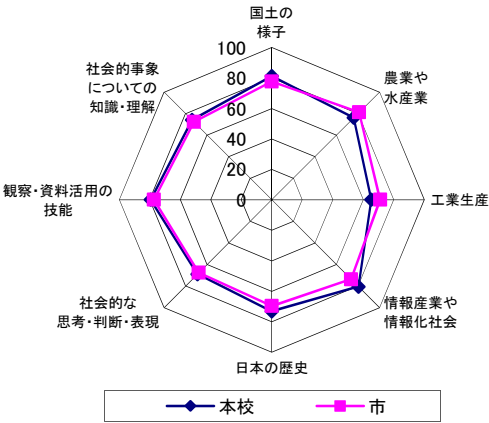
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均より4.3ポイント上回っている。 ○話し合いの様子を聞いて、意見の述べ方の工夫や司会者の話の進め方の工夫について適するものを選ぶ問題では、どちらも正答率が90%を超えており、よくできていた。 ●二人の異なる意見から共通点を見出し、文章で表す問題については、正答率が31.9%と低く、それぞれの意見を比べたり類型化したりと話し手の意図を考えながら聞くことに課題が見られた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・相手の話を聞くときには、大事なことを落とさずに聞くといった基本的なことはもちろん、常に話し手の意図を考えながら聞くことができるよう、授業だけでなく、朝の会でのスピーチや総合的な学習の時間での発表会等を通して聞く力を育てていく。
書くこと	平均正答率は、市の平均より7.6ポイント上回っている。 ○2つの方法のうちどちらが良いと思うかについて自分の意見を書く問題では、全員がどちらかの意見を述べる事ができた。また、指定された長さで文章にまとめたり、2段落構成で書いたりすることも80%以上の児童ができていた。 ●内容を読み取って文章に表す問題では、正答率が50～60%と低く、読み取ったことを適切に文章で表すことに課題が見られた。	・今後も、自分の意見を明らかにして書く活動を意図的にに行い、その際には段落構成や字数、事例や理由を挙げて書くことなど視点を決め、書く力を育成したい。 ・授業の中で説明文やグラフ等の資料を意図的に取り上げ、読み取ったことを文章で表す経験を積み上げ、適切に表現できるよう指導していく。
読むこと	平均正答率は、市の平均より2.6ポイント上回っている。 ○昨年度と同様、物語文の読解力が高い。登場人物の心情を読み取る問題では、どの設問も9割程度の正答率であり、よくできている。 ●説明文の読み取りについては、段落同士のつながりや、要旨の読み取りについて課題が残った。	・読み取り指導を行う中で、全体の場面の様子の理解や移り変わり、登場人物の心情の変化を考えさせる指導を継続して行う。 ・物語文では登場人物の様子を、説明文では文章の内容を的確に読み取ることの指導にも留意する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は市の平均より2.1ポイント下回っている。 ○「穴」「激しい」の漢字の読みについては、全児童が正しく読めていた。また、3字の熟語の構成についても90%以上の児童が理解できていた。 ●「幹」の漢字の書き取りは、正答率が22.2%と低かった。また、尊敬語や謙譲語を正しく選ぶ問題でも正答率が低く、4月に行われた全国学力テスト同様、敬語の使い方に課題が残った。	・国語科を中心に、書いたり読んだりする活動の際に漢字の活用を徹底して指導する。 ・敬語が身に付くよう、授業だけでなく日頃から相手に応じた話し方の指導を行ったり、重点的に敬語の使い方について指導したりして敬語の使い方を身に付けられるようにする。

宇都宮市立東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	81.1	77.5	74.0
	農業や水産業	76.0	81.1	73.7
	工業生産	65.3	71.1	73.5
	情報産業や情報化社会	80.6	73.7	63.2
	日本の歴史	73.1	69.7	73.5
観点別	社会的な思考・判断・表現	69.0	67.7	63.1
	観察・資料活用 of 技能	79.5	77.3	75.5
	社会的な事象についての知識・理解	74.1	72.2	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

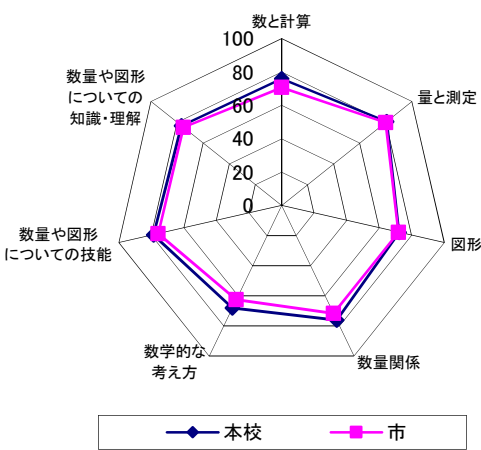
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	平均正答率は市の平均より3.5ポイント上回っている。 ○日本周辺の海洋名を答える設問では、正答率が94.4%と高かった。また、防災マップをもとに自然災害が起きた際の自助の大切さについて考え、文で表記する問題についても、市の平均正答率より14ポイント上回った。 ●日本の周囲の国の国旗について設問では、市の平均を下回った。	・日本周辺の国に関心をもたせられるよう、時事のニュースと学習内容を結びつけながら、日本の国土や世界の出来事についての関心を高めていく。 ・今後も資料を読み取ったり、資料の内容を正しく把握したりする指導を継続していく。
農業や水産業	平均正答率は市の平均より5.1ポイント下回っている。 ○米の生産が盛んな地域や、農業で働く人が抱える問題について資料を基に考える問題は、市の平均正答率を上回った。 ●耕地面積が年々減少していることを説明する資料を選ぶ問題については、「耕地面積」という表題に着目して資料を選んでしまった児童が多く、ふさわしい資料がどれかを読み取る力に課題が見られた。	・複数の資料の関係や変化を読み取り、考察する力を継続して育てていくと共に、資料の特徴を理解したりそこから判断したりする力を育てていく。 ・社会科や他教科の教科書に掲載されているグラフや文章資料を読み取り、内容を判断していく指導を継続していく。
工業生産	平均正答率は市の平均より5.8ポイント下回っている。 ○工業地帯や工業地域の立地について、資料を読んで考える問題では、正答率が83.3%と高く、市の平均より9ポイント上回った。 ●化学工業の製品を選ぶ問題では、半数以上の児童が誤答であった。	・身の回りにある工業製品について関心をもたせるとともに、国内の工業地域や工業地帯の特色について、地域や地形等の特色と関連付けながら指導していく。
情報産業や情報化社会	平均正答率は市の平均より6.9ポイント上回っている。 ○身の回りにあるメディアにはどんなものがあるか答える問題では、正答率が86.1%と市より15ポイント上回った。	・今後も身の回りのメディアについて関心をもたせるとともに、自分たちの身近な生活の中で情報ネットワークがどのように活用されているか話し合い、その便利さを感じられるようにする。
日本の歴史	平均正答率は市の平均より3.4ポイント上回っている。 ○鎌倉時代から室町時代にかけての外国との関わりや文化についての設問では、どれも正答率が80%以上であり、市の平均を10ポイント以上上回った。 ●大和朝廷による国土の統一について、資料を基に考える問題では、正答率は市の平均より高いものの、30.6%と低い値となった。	・歴史に関心をもたせられるよう、資料や図書資料、映像などを活用し今後も指導を行っていく。 ・それぞれの時代に、どんな理由でどんな出来事があったのか、時代背景ごとに事件を関連づけたり、外国との関わりを考えさせたりして指導を行っていく。

宇都宮市立東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	76.0	70.8	65.9
	量と測定	80.6	79.9	77.0
	図形	72.2	71.8	74.6
	数量関係	76.2	71.7	73.4
観点別	数学的な考え方	68.0	62.5	59.4
	数量や図形についての技能	78.7	75.8	73.3
	数量や図形についての知識・理解	76.6	75.1	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

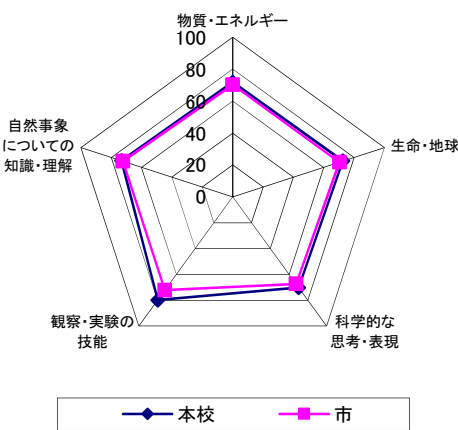
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	正答率の平均は、市を5. 2ポイント上回っている。 ○図を使って、分数の除法の文章問題に合った式を選ぶ設問では、市の平均正答率を19. 7ポイント上回っている。 ●小数第2位÷小数第1位＝小数第1位の計算では、市の平均正答率を4. 4ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・文章問題では、まずは、問題の意味を理解できるようにする。分数の除法の学習では、除数が分数である場合の除法の意味と分数の倍について理解することができるようにする。また、分数の除法計算のしかたを数直線や図・式などを用いて考えることができるようにしていく。
量と測定	正答率の平均は、市とほぼ同じである。 ○図から面積と人数の割合を求め、最も混んでいるシートを選ぶ設問では、市の平均正答率を6. 7ポイント上回っている。 ●道のりとかかった時間から時速を求める式を選ぶ問題では、平均正答率は市よりも3. 7ポイント低い86. 1%であった。	・「数と計算」と同様に、授業において自分の考えを式や図、数直線などを用いながら文章で書く活動を積極的に取り入れていく。 ・平均の学習では、なぜ平均を用いて表すのか、どのように処理をするのが妥当なのか、また、資料の中に0が含まれる場合での処理の仕方について、具体的な場面に即して考え、根拠を説明できるようにしながら定着を図っていく。
図形	正答率の平均は、市とほぼ同じである。 ○線対称な図形で対称の軸が4本あるものを選ぶ問題では、市の平均を10ポイント上回った。 ●五角形の内角の和を求める式を選ぶ問題では、市の平均正答率を10. 3ポイント下回る38. 9%であった。また、合同な三角形を作図する問題では、市を6ポイント下回った。	・合同な三角形などを作図する活動を多く取り入れ、継続して指導していく。その時に、必要な要素を筋道立てて考えさせることにより、対称な図形や拡大図と縮図についての基本的な見方・考え方を育てたい。
数量関係	正答率の平均は、市を4. 5ポイント上回っている。 ○比例の関係を、xとyを使って式に表す問題では、市を4. 2ポイント上回る94. 47%の高い正答率だった。 ●もとにする量が同じとき、割合が大きいほうが比べる量が多くなることを具体的に説明する問題では、市の正答率を8. 6ポイント上回ってはいるものの、43. 1%と低い正答率であった。	・割合の学習では、計算によって割合を求めるだけでなく、割合によって量を比較することの意味や、求めた値によって何がいえるのかという意味についても考え、具体的に説明する活動を取り入れていく。

宇都宮市立東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	71.8	70.3	69.0
	生命・地球	72.6	70.4	70.2
観点別	科学的な思考・表現	70.3	67.5	66.4
	観察・実験の技能	79.9	72.3	68.9
	自然事象についての知識・理解	73.2	72.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	正答率の平均は、市を1.5ポイント上回っている。 ○ふりこのきまりの単元では、思考を伴う問題において市の平均を大きく上回り、ふりこの周期がふりこの長さに依存していることを指摘する設問では市の平均正答率を21.5ポイント上回っている。 ●物の燃え方の単元において、燃える前と後の空気中の気体の変化を考える設問において、市の平均正答率を大きく下回った。	・実験技能等の習得を図るため、引き続き児童一人一人が実験にかかわれるような教材教具の準備を行っていく。 ・知識の習得が曖昧なものにならないよう、実験の方法についての説明や結果の考察を図で表すだけでなく、言葉で補足説明を入れるなど表現をすることに力を入れ、要点をしっかりと抑えたまとめができるよう指導していく。
生命・地球	正答率の平均は、市を2.2ポイント上回っている。 ○生物分野においてはほとんどの設問が市の正答率を上回り、発芽の実験の条件設定に関する設問では、14.1ポイント上回った。 ●月と太陽の単元においては、その特徴についての正答率は高かったが、位置関係の設問において、市を大きく下回った。誤答においては見当違いなものではなく、理解の曖昧さが感じられた。	・自然の事象や生命に関することにおいて、学習とのつながりを意識した話題を提供し、生活経験や知識の個人差を補充するとともに興味関心を高めるようにする。また、人体の仕組み等実際に観察できないものは、PCや視聴覚教材を利用していくようにする。 ・天体等、実際に観察実験等ができないものについて、これからも自作教材等の工夫を行う。 ・要点を確実な理解となるよう、友達に伝えたり、自分の言葉で表したりする活動を多く取り入れていく。